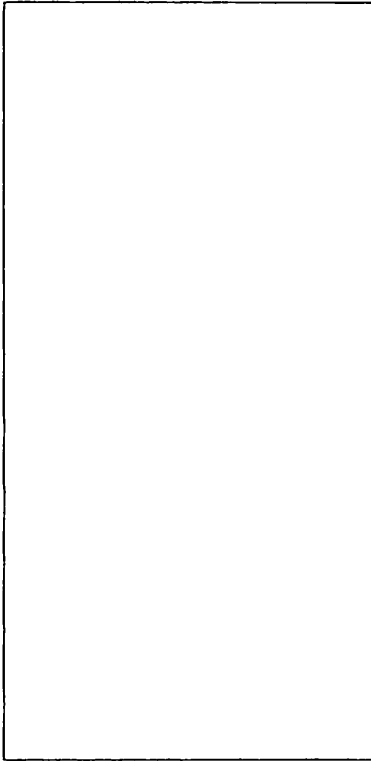


いのちの源

みなもと

ひとの一生は、長いようで短いものです。じぶんは死なないと思っおもていても、いつ死しぬかはわかりませかんがん。じぶんのまわりでどんなひとがなくなっかんがたか考かんがえて、つぎの空白くわいはくに書かいてください。



ふっかつ

復活ふっかつであり、いのちであるイエスさま

復活ふっかつというきゆうやくことはどういなうことななのでしなうか。

旧約聖書きゆうやくせいしよの中なかでも、すなでに、迫害はくがいの中なかで死しんでいいつたひとが、どうなるなるのかといいうことが、ひとびとの心配しんぱいなこととして伝つたえられていいます。

じぶんたちの信仰しんこうを守まもろうとして殺ころされていいつたひとたちは、きつと永遠えいゑんのいのちを受うけることを信しんじるようになっなっていきまいした。

マルタがイエスさまにたい対して言いったことばは、この聖書せいしよの教おしえにもとづいていいます。正ただしいひとたちが、終おわりの日ひに復活ふっかつすることを、マルタも、聖書せいしよの教おしえ

として信じていました。

しかし、イエスさまは、それでも、「わたしを信じるものは、死んでも生きる。生きていてわたしを信じるものはだれも、決して死ぬことはない」とマルタに言われます。

イエスさまの言っているいのちは、わたしたちがひとの一生として考えているいのちとは違うようです。

ひとの死によって、終わることのないいのちのあることを、イエスさまは教えています。

わたしたちの考えは、どうしても、いろんなこと



にしばらくしてしまっていて、イエスさまの言っていることが理解できません。弟子たちも同じだったでしょう。

でも、いのちの源であるイエスさまを信じることによって、わたしたちは、死を恐れない勇氣を持つことがきるのです。